

とみやの魅力大発見！

宇都宮市北西部の富屋地区は、篠井・富屋連峰や半蔵山を始めとして、三方を山に囲まれ、低地を清流田川が南流し、四季折々野鳥や初夏にはホタルが飛びかうなど、豊かな自然環境に恵まれています。

また、奈良時代創建の智賀都神社や南北朝時代開山の護鷹山伝法寺があり、江戸時代には日光道中の宿場町として栄えました。今に残る智賀都神社の付け祭りや彫刻屋台は、市を代表する優れた伝統文化でもあります。

富屋地区まちづくり連絡協議会文化活動部では、こうした豊かな自然や歴史、文化を次世代に伝えるため、平成27年に策定した「富屋地区地域ビジョン」に基づき、日々活動しています。そこでこのたび、富屋地区の魅力をたくさん発見していただくため、ガイドブックを作製しました。

富屋地区の皆さんはもとより、富屋地区を愛する市民、県民の皆様にとって、ふるさと富屋の魅力を体感していただくための、手引き書になれば誠に幸いです。

富屋地区のシンボル



シンボルマーク

左側の半円状の「と」が『富屋』を、右側の3本の曲線は清流『田川』を、中央の縦長の三角形は富屋のシンボル智賀都神社の『夫婦けやき』を表現しています。

また、色は「と」が富屋の大地を示す茶色、3本の曲線は澄みきった田川を示す青色、三角形はけやきの新緑を示す緑色です。

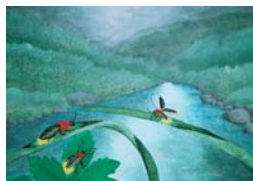
木「ケヤキ」



花「ヤマザクラ」



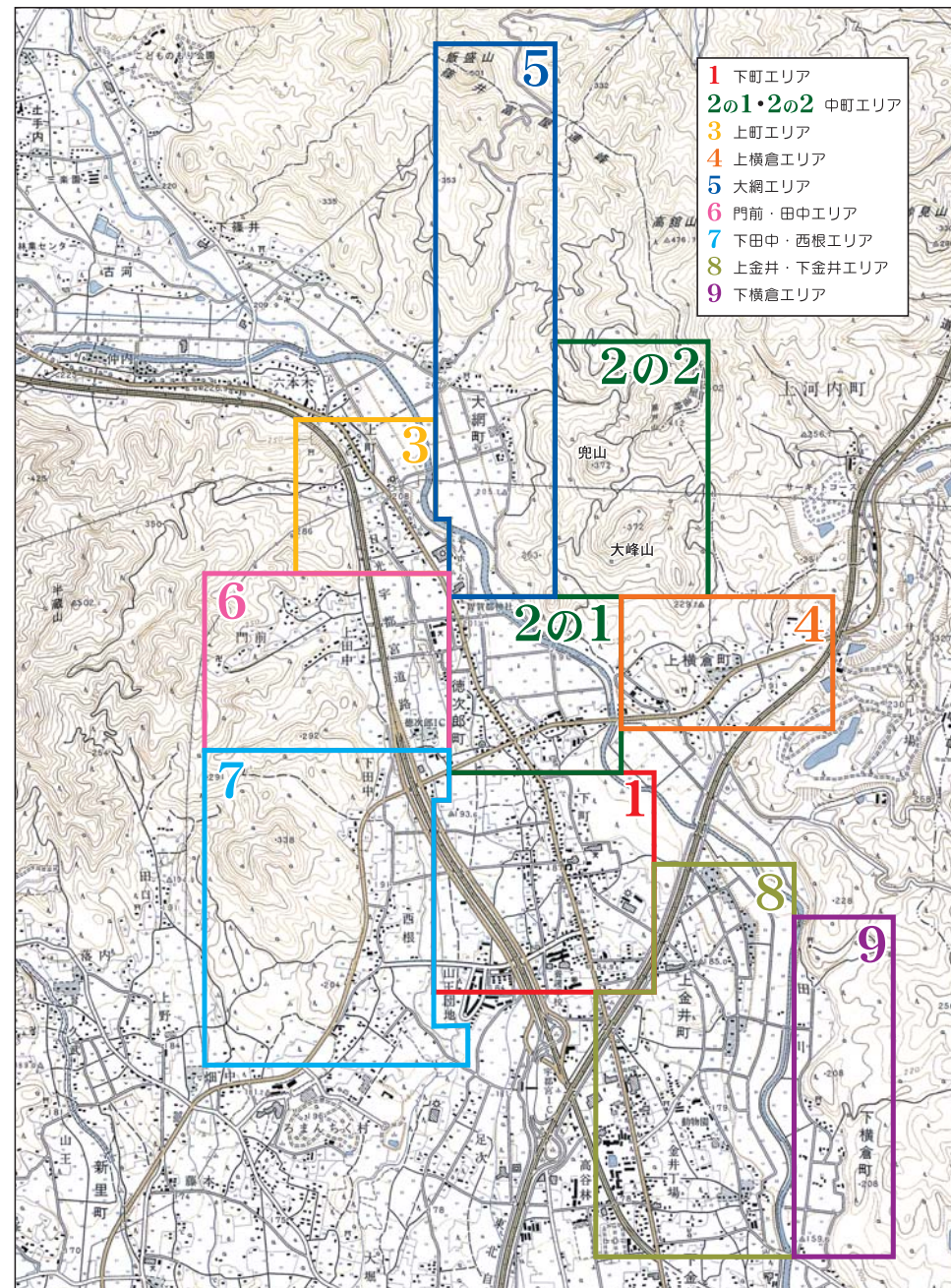
虫「ホタル」



鳥「キジ」



● エリアマップ ●



1 下町エリア

①下町薬師堂



薬師堂は江戸時代の延享2年(1745)に建立され、堂内に薬師如来を安置している。境内は下町と中町の共同墓地になっている。周辺には石仏、石塔、石灯籠が数多くあり、特に徳次郎石で細工した3体の仏像(六地藏・十九夜供養塔・馬頭観音)は見事である。お堂の入口には宝暦元年(1751)建立の棟門(2本の柱に切妻の屋根)の山門が残る。

②下町屋台

白木造り白木彫刻屋台で、白木で統一されている。江戸時代の安政3年(1856)～慶応2年(1866)に造られた。彫工は富田住儀辺系統と伝える。彫刻は龍を基調とし、前面鬼板・懸魚は親子龍が寄り添う「子引き龍」。後面鬼板も龍で、懸魚は波間に浮かぶ宝珠。欄間は鶴の巣ごもり、前柱は葡萄に栗鼠。側面障子回りは菊。高欄下は飛龍と魚龍。番付は5番。町印は「しも」。



③赤岡稲荷神社



当社は下町の鎮守で、かつて郷倉と呼ばれた場所に建っている。創建は安土桃山時代の慶長2年(1597)と伝える。祭神は稲の神様、倉稲魂命である。もともと下町北方の字赤岡に鎮座したことから、この名が付いた。昭和30年に宇都宮市消防署富屋分遣所の設置に伴い、当地に移転した。例祭は旧暦9月29日。この日九日祭りと称して、幟を立てる。

うけのたまのめい



④私塾明王院跡

明王院は富屋地区初の学問所で、安政5年(1858)に、修験者の外鯨要人により開塾された。2代外鯨結城、3代外鯨升が塾長を務め、大正10年まで60年間続いた。農閑期に13歳～18歳の若者を対象に、読み書きや日本外史、四書五経などを教えた。当塾で薫陶を受けた者は、500名。家の門を入ると、「謝恩之碑」がある。昭和26年に門下生が建立した



⑤徳次郎城跡



安土桃山時代(天正年間)、宇都宮城の支城として、新田徳次郎昌言が居城。昌言は宇都宮国綱に仕えたが、慶長2年(1597)、その子義定の時、宇都宮氏滅亡とともに廃城となった。東側は田川を利用し、城内に土塁、堀を巡らした平城である。本丸、二の丸など5・6カ所の曲輪からなる。東西160m、南北320m、面積は約6ha。堀の深さは4m余ある。

⑥下徳次郎宿跡



江戸時代日光道中18番目の宿場町として栄えた。上・中・下3宿の南端にあって、問屋場兼仮本陣1軒、仮脇本陣1軒、高札場1カ所があった。宿の長さは3町12間(349m)。宿の家数は約30軒。宿内に真言宗成就院、修験(明王院・常楽院)、薬師堂、道標などがあった。農家と商家を営む家も多く、造り酒屋、醤油屋、紺屋などがあった。

江戸時代日光道中18番目の宿場町として栄えた。上・中・下3宿の南端にあって、問屋場兼仮本陣1軒、仮脇本陣1軒、高札場1カ所があった。宿の長さは3町12間(349m)。宿の家数は約30軒。宿内に真言宗成就院、修験(明王院・常楽院)、薬師堂、道標などがあった。農家と商家を営む家も多く、造り酒屋、醤油屋、紺屋などがあった。

⑦人車鉄道富屋線跡



明治32年に石材輸送のため、戸祭・新里間を結ぶ人車鉄道(トロッコ)が開通した。4年後の明治36年、その支線として乗客(定員6名ほど)を運ぶ富屋線(戸祭・仁良塚・徳次郎間)が開通した。同39年には路線が延長し、宇都宮材木町と徳次郎が直結した。昭和3年にガソリンカーが走り、宇都宮まで30分で乗り入れた。昭和7年廃線となった。

明治32年に石材輸送のため、戸祭・新里間を結ぶ人車鉄道(トロッコ)が開通した。4年後の明治36年、その支線として乗客(定員6名ほど)を運ぶ富屋線(戸祭・仁良塚・徳次郎間)が開通した。同39年には路線が延長し、宇都宮材木町と徳次郎が直結した。昭和3年にガソリンカーが走り、宇都宮まで30分で乗り入れた。昭和7年廃線となった。

⑧日光街道桜並木



毎年4月中旬頃になると、日光街道は山桜のトンネルになる。全国桜の名所100選にも選ばれ、全長は16km(上戸祭～大沢)。富屋地区の桜並木は約3km。桜は昭和26年、沿道5カ村の人々の勤勞奉仕によって、植え付けられたものである。

2 中町エリア

①智賀都神社



奈良時代の宝亀9年(778)、久次良一族が日光二荒山神社の御神霊を、千勝森に祭ったのが起源という。主祭神は^{おおなむらのみこと}大日貴命、配神は^{あまのりひのみこと}田心姫命、味耜高彥根命の3柱。現在の本殿は江戸時代の延享元年(1744)に建造された。明治期から昭和期戦前には、郷社の社格を受けた。3年に1度、7月最終土曜日に付け祭りが、12月14日に冬渡祭が行われる。

②智賀都神社のけやき

参道入口に東西、2本のけやきがそびえる。樹齢は750年以上。県内最大級のけやきである。高さは40m、目通り周囲は東8m、西7.3m。枝張り最大44mある。東側は天を受け、西側は天に向かう姿で、夫婦けやきとも言う。昭和29年に県指定文化財(天然記念物)となる。幹の中が大きく空洞化するため、平成6年内部に特殊樹脂を埋め込み修復した。



③富屋小学校跡



明治6年4月上町に明徳舎として開校したが、同年秋に中町^{あさ}字東宅地に移り、徳次郎尋常小学校と改称した。明治32年に中町^{あさ}字花の木に移転した。富屋小に現存する校門(写真下)は、この時建てられ、長らく使われた。字花の木には明治43年まで、12年間学校があった。校名は富屋尋常高等小学校で、校長は入江熊三郎(門前出身)であった。



④中徳次郎宿跡

江戸時代日光道中の宿場町として栄えた。上・中・下3宿の中間にあって、問屋場兼本陣1軒、脇本陣1軒、高札場1カ所があったほか、宿内には智賀都神社に付属した神宮寺があった。宿の長さは2町51間(310m)。宿の家数は約50軒あり、旅籠や造り酒屋が2軒あった。郷土のは、中徳次郎宿で生まれたとい



町51間(310m)。商店が軒を連ね、民謡「徳次郎節」われる。

⑤大峰山



中町の毘沙門橋を渡り、富屋連峰を登山する最初のコースが大峰山。尾根が東西に長く伸び、標高は372m。江戸時代の絵図に「大峰」と記載されている。西斜面は岩石が露出し、天狗岩と呼ばれる岩がある。かつては市指定天然記念物の天狗松やヤシャブシがあったが、枯れて今はない。

⑥中町屋台

黒漆塗造り、鍔金具付きの華麗な彩色彫刻屋台である。江戸時代の天保7年(1836)、宇都宮新田町(現清住町)で造られたものを、安政年間頃譲り受けた。彫工は鹿沼住石塚直吉吉明などである。前面・後面の鬼板は共に「桐に鳳凰」、下方の懸魚に山鵲が飛ぶ。内障子は金色の大鷲。高欄下にエビやタコがいる。番付は6番。町印は「中」。



⑦あざ地蔵

「あざ」や「いぼ」で困っている人が、このお地蔵様にお願ひすると不思議にも治るといふ。かつては東京や福島、茨城方面からも参詣人があった。像の高さは85cm、石造である。その昔中町の本陣の方が、毘沙門山西側の開墾の際見つけ、智賀都神社に安置後、文化4年(1807)に神宮寺に移された。平成6年に当地に安置された。



⑧富屋村役場跡



明治22年、徳次郎宿と近隣の大網、上横倉、下横倉、上金井、下金井の各村が合併し、富屋村が成立した。村名は四書五経の大学の一節「富潤屋」に基づく。当初中町^{あさ}字東宅地に設けられ、明治34年に上条^{あさ}に移転(写真の場所)し、昭和29年まで役場があった。その後、役場の建物は市役所富屋支所(出張所)として、昭和34年まで使われた。

3 上町エリア

①秋葉神社



当社は上町の鎮守で、当町西方の物見山に鎮座する。創建は不詳であるが、社殿前の石灯籠の中には、正徳3年(1713)のものがある。かつては三島明神、星宮、稻荷社、天王社、金比羅宮などがあったが、現在は秋葉神社一社に合祀されている。祭神は火産靈命で火防に御利益がある。現在の例祭は11月23日。甘酒が振る舞われる。

②安養院跡

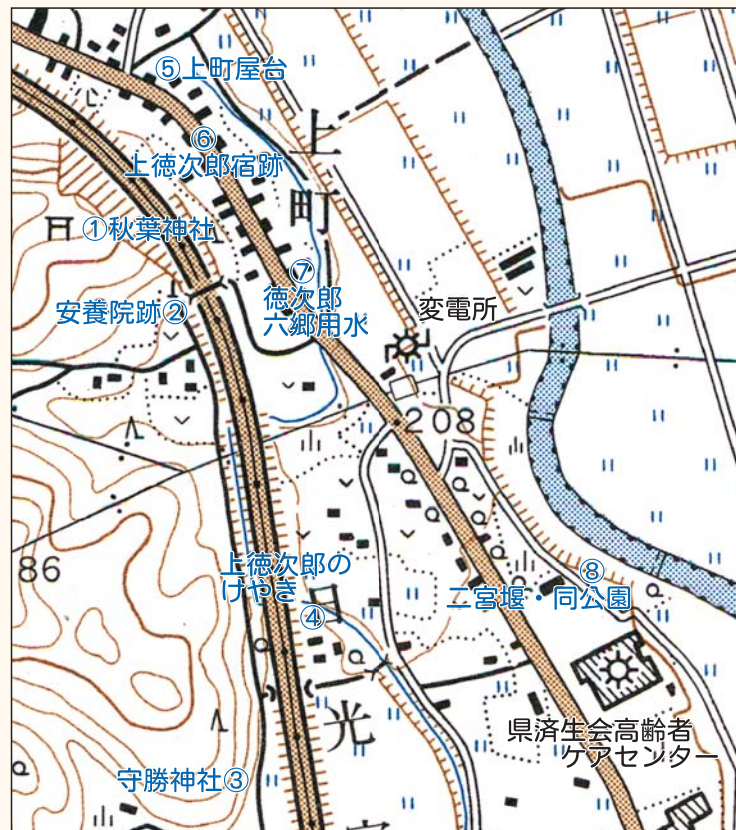


江戸時代上徳次郎宿には、将軍日光社参の折、小休所となった安養院があった。金剛山安養院と言い、宗派は真言宗で古賀志村弘蔵院の末寺となっていた。現在の上町公民館の入口を登り詰め、日光宇都宮道路から上町共同墓地付近と推定されている。往時を物語るものはないが、共同墓地に住職の墓石(卵塔)が4基残っている。

③守勝神社



室町時代から江戸時代初期にかけて活躍した名刀工「守勝」を祭った神社。守勝は初代から5・6代続き、優秀作は師匠の相模国広光に匹敵し、正宗にも迫ることから、「徳次郎正宗」の別称が伝えられる。徳次郎の刀工は、このほか重勝、定勝、勝広など30余名が知られる。徳次郎は下野刀工発祥の地である。社殿は昭和55年、上町館野照氏によって修復された。



④上徳次郎のけやき



徳次郎町字百目鬼の岡本浩家の屋敷内にある周囲8mの巨木である。推定樹齢は、智賀都神社の大けやきと同程度(750年以上)で、県内最大級である。幹に大きな空洞がなく、樹に勢いがある。幹の途中にイロハモミジが自生している。岡本家の祭る御神木にもなっている。平成都宮市指定文化財(天然記念物)となった。

⑤上町屋台



黒漆塗り、華麗な彩色彫刻屋台である。江戸時代の文化5年(1808)に鹿沼中田町で建造されたものを明治6年に当町で譲り受けた。彫工は日光東照宮五重塔彫物方棟梁を務めた、名工後藤周次正秀である。前面・後面の鬼板に丸彫り(立体彫り)の龍が堂々とそびえる。脇障子は禅宗寺院に見られる火灯窓。高欄下は金色の龍、車隠しは豪快な荒波。番付は4番。町印は「上」。

⑥上徳次郎宿跡



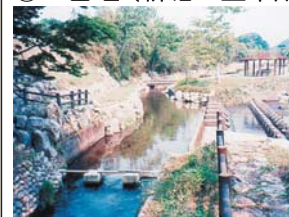
徳次郎3宿の北端にあり、最も早くから開けた宿である。元和3年(1617)に家康公の神霊を日光山に鎮座する際、人馬の継ぎ立てを行い、以後宿駅となった。本陣1軒、脇本陣2軒、問屋場1軒のほか、将軍社参の小休所、安養院があった。宿の長さは3町14間(352m)。宿の家数は約30軒、多くの旅籠が軒を連ねた。開宿400年を経ている。

⑦徳次郎六郷用水



この用水は、田川の水を石那田の仲内から取水し、上町を経て徳次郎6集落の水田を潤すための用水である。長年、取水口の堰をめぐる、石那田と徳次郎の農民が水争いを続けたが、嘉永5年(1852)、二宮尊徳によって、堰の改修及び用水路の補修が行われ、解決が図られた。なお、昔からあった堰は、昭和58年の河川改修工事により、西側に移築された。

⑧二宮堰(新堀・宝木用水堰)・同公園



かつて新堀堰又は宝木用水堰と呼ばれた堰で、用水は徳次郎町の一部と宝木地区の水田を潤す。流路延長約21km。下流は姿川に合流。用水の名称が上流から「新堀」「宝木用水」「新川(江曾島用水)」と変化する。幕末期の嘉永5年(1852)、二宮尊徳により新堀(徳次郎新堀)が完成。その後安政6年(1859)、弟子の吉良八郎によって宝木用水が完成した。

4 上横倉エリア



①多藤神社



上横倉町の鎮守。創建は不祥ながら、文化2年(1805)に智賀都大明神を祭った記録がある。祭神は大己貴命。五穀豊穡、家内安全に御利益がある。社殿入口に7基のこま犬、12基の灯籠が並ぶ。最古の灯籠は正徳3年(1713)のもの。例祭は11月第2日曜日。社殿に入る鳥居右手の山林に、かつて西方寺の末寺、真言宗・多藤山延命寺があった。

②上横倉の獅子舞



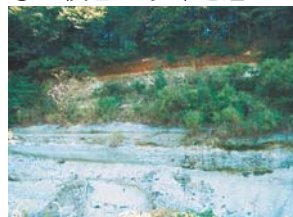
毎年8月15日、多藤神社において、五穀豊穡、悪霊退散、家内安全を願い、獅子舞が奉納される。また、午後には公民館の前庭で新盆供養が行われる。獅子舞は天保9年(1838)、関白村から伝授されたのが起源という。関白流を名乗り、雄2匹、雌1匹に扮した3匹の獅子が、笛の音に合わせ、太鼓を打ち鳴らして激しく舞う。演目は鳥居舞、神楽舞、庭舞、雌獅子引き、弓くぐりのほか、棒術がある。

③屋敷裏遺跡



富屋地区内には縄文時代の遺跡が15ヵ所あるが、その多くはほ場整備事業等により形状が変化し、遺物は極めて少ない。この遺跡は縄文時代中期(5000年前)の貴重な遺跡で、土器の破片や石器類が散在している。

④上横倉の砂礫地層

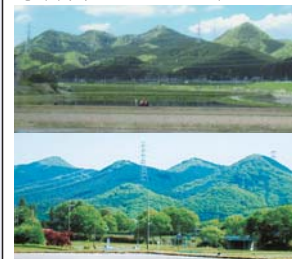


上横倉の山肌を削ったところに、地質の成り立ちを示す地層が見られる。表層の黒土や火山灰層の下に、緑色の凝灰岩や礫層が重なっている。これはこの地域が、かつて湾内の海底にあり、海底火山活動によって、凝灰岩や砂岩が積もったことを物語っている。また、大量の砂礫が上流から流れ、堆積したと考えられている。

5 大網エリア



①篠井・富屋連峰



「宇都宮アルプス」と愛称される美しい山並みは、2つの連峰からなる。北の篠井連峰は、左から榛名山、男山、本山、飯盛山(大網)の4山。北東の富屋連峰は、高館山、兜山、黒戸山、大峰山の4山である。

②清流田川



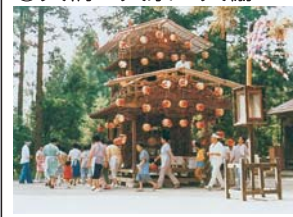
富屋地区を南下する田川は、源流が日光市七里で、末流は小山市で鬼怒川と合流する。総流路は78km、地区内の流路は約6km。水田を潤し、アユやヤマメの釣り場となり、四季折々、風光明媚な表情を見せる。

③高麗神社



大網町の鎮守。江戸時代の万治2年(1659)に創建され、祭神は高麗神。雨乞い、五穀豊穡、家内安全に御利益がある。例祭日は旧暦9月29日。かつては8月下旬に境内で、天棚を設置し、天祭行事が行われた。社前の石灯籠の中には、寛文8年(1668)の古いものも残る。当社東側には、江戸時代に天台宗・堂峰山光明寺があったが、明治初期に廃寺となった。

④大網の天祭・天棚



天祭は五穀豊穡、風雨順調を祈る農民の信仰行事である。台風の被害が心配される二百十日を前に行われる。白装束の行人を中心に、3日3晩千度踏みが行われる。天棚は天祭行事の時に組み立てられるもので、慶応3年(1867)に造られた。2階造りの天棚の四方・八方には、唐獅子や龍、牡丹などの華麗な彫刻が施されている。

①伝法寺



南北朝期の貞和5年(1349)、南朝の後醍醐天皇を開基として、妙哲禅師が開山した。禅師は塩原の妙雲寺、清原の同慶寺、京都の北禅寺を開いた高僧。本堂には本尊薬師如来が、釈迦堂には釈迦三尊が安置されている。宗派は当初臨済宗であったが、後に曹洞宗となった。当寺の行事として、大般若会、お施餓鬼法要などがある。

②妙哲禅師の墓



この墓(開山無縫塔)は、県指定文化財(史跡)である。

伝法寺本堂の北西、山道を登ると妙哲禅師の墓がある。高さ148cmの安山岩製で、8角形の基壇、竿石、中台の上に卵塔を安置する。基壇の底面に禅師の功績、貞和5年の没年が刻まれている。

③門前屋台



白木造り白木彫刻屋台であるが、一部破風板などに彩色が見られる。製作年代の記録はないが、屋台の作風から江戸末期と推定され、地元住民が建造した。彫工は結城住野村幸吉、瀬川住大出常吉の銘が残る。前面鬼板は精悍な飛龍と魚龍、懸魚は鷹。後面鬼板は鞠を持つ唐獅子。水引から前柱は梅や錦鶏、脇障子は松竹梅に鶴亀。番付は3番。町印は「もん」。



⑤亀井六郎茂清の墓

入江利長家の南に、亀井六郎茂清の墓といわれるものがある。石祠の中に高さ90cmほどの五輪塔2基が安置されている。茂清は、紀州熊野出身の鈴木三郎重家の弟で、源義経四天王の一人。地元では当地で戦いがあり、重清ら4名が討ち死にしたと伝えらる。この墓の西方入江隆三亀井の小字名も残る。



る。この墓の西方入江隆三亀井の小字名も残る。

④二宮尊徳の宿舎跡



大堰の改修のほか、徳次郎地内今に残る池田家の母屋は、嘉永尊徳は奥座敷の上の間で、暮ら

二宮尊徳は江戸末期の嘉永5年(1852)、石那田村仲内の徳次郎六郷用水の大堰の改修に着手。その時宿舎としたのが、田中の庄屋、現在の池田哲夫家であった。3月から約7か月間滞在し、の用水路の補修も行った。3年の建造で、建坪63坪、した。

⑥鎌倉・室町期の古道



西根から田中、門前を経て上町に通じる道路は、江戸時代に日光道中が開かれる以前からの古道である。古道沿いには、徳次郎刀の鍛冶場跡や伝法寺、堀の内城跡、百目鬼の堀跡がある。江戸時代には大谷道と呼ばれた。

⑦田中ホタルの里



上田中の山すそから田中公民館に至る水路、約500mは、毎年6月になるとホタルが飛びかう。1年を通じてきれいな水が流れ、両岸は山林と田んぼになっている。水路が長いのでゲンジボタルの発生時期が、少しずつ変化し、長期間ホタルを鑑賞することができる。発生数はわずかながら、ヘイケボタル(準絶滅危惧種)も見ることができる。

⑧田中屋台

漆塗り造り白木彫刻屋台であるが、土台は白木である。江戸末期の嘉永7年(1854)に、地元住民が建造した。彫工は富田住磯辺儀兵衛敬信。屋台の螺鈿の柱(貝殻を一面に貼り付け磨き出した細工)は見事。前面の琵琶板から内障子には、牡丹と7匹の勇壮な唐獅子。鬼板は前面が波に飛龍、後面が牡丹に唐獅子。脇障子は牡丹に夫婦孔雀である。番付は2番。町印は「田」。



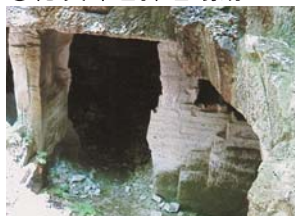
⑨神明宮



田中の鎮守。通称おしんめ様。創建は古く宝亀2年(771)と伝える。五穀豊穡、災難防止に御利益がある。社殿の中に守り神として、石造りの2体のこま犬がいる。占いこま犬として有名で、願いが叶う時は軽く持ち上がり、叶わぬ時は重くて持ち上がらないという。このため昔は参詣人が多く、絵馬が数多く奉納されている。例祭は12月第2日曜日。

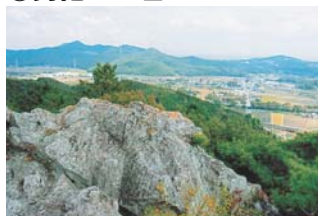
7 下田中・西根エリア

①徳次郎石採石場跡



下田中の西方に石山があり、山頂の尾根に沿って徳次郎石の採石場跡がある。石山は門前・田中・西根3地区の共有林で、古くから農業の合間に採石、細工を行ってきた。採石は江戸中期ごろから盛んになり、神祠や鳥居、灯籠に加え、石蔵に多く利用された。昭和39年には日光石材㈱が参入した。最後に残った石工の採石は、平成2年まで続いた。

②男抱山・富士山



男抱山は標高338mの山で、山頂は岩場のため、360度のパノラマが楽しめる。すぐ西に富士山が連なり、ハイカーの人気スポットである。昔は子守護山、乙抱山、弟抱山とも呼ばれた。悲恋物語である民話、男抱山物語の舞台となった所。山頂の神社は縁結びの神様として知られ、参詣して相手の方向を望めば、願いは叶うという。

③西根の徳次郎石蔵



屋根、庇、外壁に徳次郎石を用い、漆喰で化粧した品格のある石蔵。明治9年に建てられ、建坪は7坪(間口3.5間×奥行2間)。平成27年池田光一氏によって修復が施された。地区の代表的な徳次郎石蔵である。



④西根石造建造物群

西根集落は道路沿いに、石造の蔵、母屋、塀が密集し、全国的に石の里として知られる。近くに採石場があったこと、明治初期に火災に遭い防火対策の面から、石造物が数多く建てられた。20戸の戸数に対し、石蔵は60棟を数える。最古の石蔵は万延元年(1860)で、最新の石蔵は昭和52年。徳次郎石と大谷石が混じるが、古い蔵は徳次郎石が多い。



⑤西根観音堂(聖観音)

西根公民館西側の石段を登った所に、観音堂がある。このお堂に高さ180cm、全体に金箔を施した聖観音の立像が安置されている。宝暦8年(1758)に、西根集落の寒念仏講中によって建立されたもので、人々の危難、苦悩を救う拠り所となってきた。仏像の作者は宇都宮馬場町の仏師、高田運応である。右手は恐れを取り除く施無畏印、左手は拳印。



⑥西根屋台



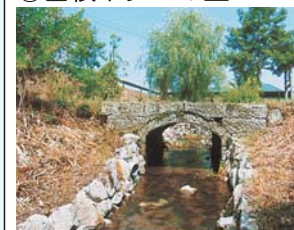
白木造り白木彫刻屋台であるが、破風板などに彩色が見られる。江戸末期の安政2年(1855)、地元住民が建造した。大工は宇都宮住梶倉蔵、彫工は富田住磯辺儀兵衛敬信。前面鬼板・懸魚は、牡丹に唐獅子の子落としの図柄。後面鬼板・懸魚は、鷹が兔を狙う図柄。高欄下、車隠しには海の世界が広がり、エビ、タコ、タイ、ヒラメなど多くの魚類がいる。番付は1番。町印は「にし」。

⑦ただおみ温泉



平成4年に開業した民間の温泉施設。泉質はアルカリ性単純温泉で、温度47.3度、湯量毎分120ℓ。源泉掛け流しに魅力があり、県内外から連日、大勢の温泉ファン、観光客が訪れている。

⑧西根ホタルの里



西根ホタルの里は、富屋西部ホタル愛護会が進めているホタル保全地。平成20年から人工飼育したホタルの幼虫を、毎年2月に、富屋小の児童と一緒に放流している。ホタルの飼育はホタル研究所の池田一美さんが行っている。また富屋小3年の児童たちが、年間を通じてホタル学習に取り組んでいる。幼虫の放流によって、今では、毎年ホタルを鑑賞できるようになった。

上金井・下金井エリア

宇都宮市水道今市水系第六接合井は、大正4年、今市浄水場から戸祭配水場までの26km、標高差240mの送水管にかかる水压を弱めるために設けられた。建屋はゴシック調で基礎は徳次郎石、八角形の煉瓦造りである。昭和24年の今市地震でも倒壊を免れ、創建当時の姿を残す唯一の接合井で、登録有形文化財となった。

この一里塚は江戸時代、日光道中を旅する人々のために設けられた道案内である。江戸日本橋から、29里目(約116m)に当たる。塚は東西に1ヵ所づつあり、東の塚は下金井町に属し、高さ約2m、中央にスギが伸びる。西の塚は徳次郎町下町に属し、高さ約1.6m、桜とヒノキがそびに柵が設けられ、整備されている。

上金井町の鎮守。創建は不祥であるが、出羽の湯殿山神社から分霊を移した。神霊を祭る手の込んだ石祠は、皇紀2600年（昭和15年）の記念に建てられたもの。東北自動車道整備のため、旧境内が買収となり、昭和45年に現在地に移転鎮座した。祭神はおひやまつのお大日主命みこと。例祭は4月8日に近い日曜日。

かつて上金井町に西方寺の末寺、真言宗・西光院があった。創建は不祥であるが、明和7年(1770)の記録では、寺は南向き、座敷は6間あり、建坪は40坪半であった。江戸時代末期には廃寺となった。



嘉永5年(1852)、二宮尊徳は植林用苗木を養成するため、上金井用水路西側の段丘を用地とした。東西115m、南北610m、7haの土地に苗木が植えられ、明治初年に山形県復興のため、山林奨励し、その養成場となった。植付本数は21,952本と記録されている。

A photograph showing a grassy field in the foreground, with a dense forest of tall trees in the background. The field appears to be a clearing or a meadow. The trees are mostly deciduous with green foliage. The sky is not clearly visible, appearing overcast.

明治16年、上金井に徳次郎尋常小学校上金井分教室が設置された。同23年には富屋村の成立により、富屋尋常小学東校、同35年には高等科設置に伴い、富屋尋常高等小学東校と改称した。明治37年、東校と西校が合併したが、上金井校舎が下町に移転統合し、名実ともに廃止された。

上金井町下組で祭る神社。創建は不祥ながら、社前の石灯籠に寛政12年(1800)の年紀が見られる。祭神は猿田彦命。例祭は旧暦9月19日に近い日曜日。境内に末社として天満宮、山の神などを祭る。

年間20万人が訪れる国内有数の民間動物園。開園は昭和56年。現在、世界の動物95種、450点を飼育している。人気の動物はゾウやキリン、チンパンジー、ホワイトタイガーなど。毎月20日はアニマルの日で、ゾウの身体楽しいイベントがある。

A photograph showing three traditional Chinese stone grave markers (steles) in a cemetery. The markers are made of light-colored stone and feature intricate carvings, including figures and architectural motifs. They are set on a paved ground with trees and greenery in the background.

下金井町の鎮守。創建は不祥。出羽の湯殿山神社から分霊を移した。
祭神は大山祇命。おおまやつみのみこと例祭は4月8日に近い日曜日。旧村社。境内に末社として稻荷神社、金比羅宮、天満宮を祭る。

かつて下金井町に西方寺の末寺、真言宗・蓮蔵院があった。創建は不祥であるが、敷地に高さ255cmの宝篋印塔ほうきょういんとうが残る。塔には宝暦14年(1764)の年紀が刻まれている。敷地の東斜面(田川の岸)を「寺がけ」と呼んでいる。江戸末期には廃寺となった。

9 下横倉エリア



①御岳山と御岳神社



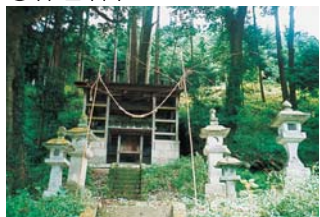
御岳山は下横倉町の北方、田川沿いにある、標高は208m。大きく露出した凝灰岩、切り立った断崖は迫力がある。山頂からの眺めは絶景で、北端には御岳神社が鎮座する。創建は天保5年(1834)、木曾御岳山より、分霊を移した。祭神は猿田彦命など5柱。明治15年、御岳教の所属教会となり、昭和27年には宗教法人となった。例祭は4月17日と11月17日。

②下横倉城跡



戦国時代の代表的な山城で、宇都宮氏の家臣、横倉氏の砦であったという。東方は丘陵地、北方と西方は高さ40mの断崖である。頂上付近に、東西40m、南北50mの範囲で、2つの曲輪があり、土塁と堀跡が残る。2つの曲輪は土橋で結ばれ、南の曲輪から斜面を通じて外部に通じる。山裾の磯野家は、古くは横倉を名乗っていた。

③保古神社



下横倉町の鎮守。創建は不詳ながら、明和年間に氏神として祭ったとされる。石灯籠

に明和9年(1772)の年紀のものがある。祭神は神話の神、天御中主命。五穀豊穡、家内安全に御利益がある。例祭は旧暦9月19日に近い日曜日。摂社として稲荷神社、貴船神社を祭る。近辺には、白雲山信仰塔や石尊大権現の石灯籠が見られる。

④東光寺跡



かつて下横倉町に西方寺の末寺、真言宗・横倉山東光寺があった。創建

は戦国時代の天文15年(1546)という。明治5年に廃寺となった。現在、周辺は共同墓地となっている。なお、東光寺の南約300mの山裾に不動寺があったとされ、住職の墓石(卵塔)が眠る。

とみやの社寺の祭り・集落の行事



智賀都神社例大祭付け祭り(屋台の奉納)



智賀都神社例大祭付け祭り(屋台囃子)



智賀都神社冬渡祭り



伝法寺大般若会



鎮守の祭り(九日祭り)



小正月・どんどん焼き



花祭り



庚申様



送り盆の百万遍念仏



金比羅様の悪魔祓い

とみやの年中行事（家の伝統行事）

正月の行事		夏の行事	
12月中旬	すす払い	旧6月1日	ムケノツイタチ
12月下旬	門松採り	8月1日	カマノフタ
12月下旬	餅つき・正月飾り	8月7日	七夕
12月31日	大みそか	8月7日	墓掃除
1月1～3日	正月	8月13日	迎え盆
1月2日	仕事始め	8月14日	盆
1月6日	山入り	8月16日	送り盆
1月7日	七草がゆ	秋の行事	
1月11日	鋤入れ	旧8月1日	八朔
1月11日	お供え崩し	旧8月15日	十五夜
1月14日	まゆ玉飾り	旧9月13日	十三夜
1月15日	小豆がゆ	9月23日頃	秋彼岸
1月20日	二十日正月	旧9月29日	クニチマツリ
1月20日	恵比寿講	10月10日	ジジンサマ
1月20日		10月20日	恵比寿講
春の行事		冬の行事	
2月3日	節分	旧11月15日	霜月十五日
2月最初の午	初午	旧12月1日	カワピタリ
2月8日	事始め	12月8日	事じまい
2月10日	ジジンサマ	12月14日	オタリヤ
3月3日	三月節句	12月22日頃	冬至
3月中旬	麦ごと		
3月21日頃	春彼岸		
5月5日	五月節句		
5月下旬	さなぶり		



山 入 り



七草がゆ



鋤 入 れ



まゆ玉飾り



小豆がゆ



節 分



初 午



麦ごと（札ごと）



春 彼 岸



三月節句



五月節句



盆



餅 つ き



正月飾り



門 松



十五夜・十三夜



クニチマツリ



冬 至

とみやの地域イベント



とみやふるさとまつり



とみやそばまつり



ファイトとみや



富屋地区敬老会



青少年リーダー講習会



たこあげ大会



健康づくりハイキング



富屋再発見歩け歩け大会



ホタル幼虫放流会



防災訓練

とみやの農産物・特産物

米



清らかな田川の水、田川から分水した水を利用して、おいしいお米が作られています。

いちご



全国一を誇る本県のいちご生産。甘くてジューシーな味は、とみやブランドです。

トマト



春先から真っ赤に熟したトマトが収穫されます。おいしさと健康に最適の食べ物です。

りんご



完熟したりんごを厳選して、直接販売しています。ふじの蜜入りりんごは、一度食べるとくせになります。

さくらんぼ



富屋が誇る高級果物。ビニールハウスを利用し、本場に負けない商品を生産しています。

ぶどう



主にビニールハウスで、土を使わずボックスで栽培されています。このため、味がとても濃厚です。

シクラメン



冬を彩る高品質のシクラメンが、大温室で栽培され、東京方面に出荷されています。

ねぎ



富屋西部地区は、昔からねぎの本場。長く太い曲がりねぎは軟らかく、すきやきに最高です。

そば



とみやそばまつりのそば粉は、すべて地元産。水はけの良い畑で、栽培されています。